

プルースト現象における言語及び視覚手がかりの影響

光村 麗衣子

本研究は、プルースト現象という心理現象において、単語や命名という言語的手がかりと、写真という視覚的手がかりが、それぞれどのような影響を及ぼすのかということについて検討することを目的として行った。実験 1 の目的はにおい手がかりによって想起される自伝的記憶における命名の影響を検討することであった。30 名の実験参加者に 10 種類のにおい刺激と 10 種類の文字刺激を呈示し、におい刺激についてはその熟知度・感情喚起度・快-不快度を評定させた。さらに、におい刺激や文字刺激を手がかりとして自伝的記憶の想起を求め、想起が可能であった場合は、その想起された過去の出来事の生起時期・鮮明度・経験時の感情喚起度・快-不快度を評定させた。実験の結果、命名されたにおい刺激についてはおよりも熟知度が高く、かつ情動的であった。命名されたにおい手がかりによって想起された自伝的記憶は、命名されなかったにおい手がかりによって想起された自伝的記憶よりも鮮明かつ情動的であった。また、感情一致効果がみられた。さらに、自伝的記憶の鮮明度において、におい手がかりよりも言語ラベル手がかりの方が有効であるという結果となった。これらの結果は、自伝的記憶の想起において、命名をはじめとした言語処理が重要な役割を果たしていることを示唆している。続く実験 2 の目的は、視覚刺激の特徴を操作することによって、過去の出来事の経験時の状況の再現性を高め、におい手がかりによって想起される自伝的記憶の情動性や鮮明度を高めることができるという仮説を検証することであった。48 名の実験参加者に 4 種類のにおい刺激及びそれぞれのおい刺激と一致する写真刺激を呈示し、それらを手がかりとして自伝的記憶の想起を求め、その想起された過去の出来事を文章で記述させた後、生起時期・鮮明度・経験時の感情喚起度・快-不快度を評定させた。におい刺激についてはその熟知度・感情喚起度・快-不快度を評定させた。写真刺激には人の動作があるかないか、そしてカラーであるかモノクロであるかという特徴の違いを設け、実験参加者間で比較した。実験の結果、においの感情喚起度において色の効果が有意となり、仮説が一部支持された。また、感情一致効果がみられた。さらに、新しい出来事は古い出来事よりも鮮明に想起されることが明らかとなった。本研究は、におい手がかりによって想起される自伝的記憶が、符号化特定性原理に基づき、言語情報及び視覚情報によって符号化されており、それを再現することによって情動的かつ鮮明に想起されるということを示唆している。(応用認知心理学)